



## 第41回 香川県医学検査学会のご案内

会 期：平成29年4月23日(日)  
8：50～15：40 (受付開始8：20～)

会 場：香川大学医学部 臨床講義棟2階

テーマ：『感染症にそなえる ～検査室の役割・検査技師の使命～』

### <教育講演>

「新興・再興感染症に備える～多剤耐性菌から輸入感染症まで～」

横田 恭子 (香川県立中央病院)

### <パネルディスカッション>

・血液部門：「当院にて経験した重症熱性血小板減少症候群の2例」

杉 理恵 (香川県立中央病院)

・微生物部門：「感染症診断に役立つ微生物検査を目指して」

西村 恵子 (NHO四国こどもとおとなの医療センター)

・輸血免疫血清部門：「輸血後感染症検査実施への取り組み」

鬼松 幸子 (回生病院)

・病理部門：「病理部門における感染対策」

松永 徹 (香川大学医学部附属病院)

### \*学会に参加される方へ\*

- ・受付：参加者は会員証による受付登録を行います。県会員は氏名、所属を記入して下さい。
- ・参加費：学会参加費は2,000円(昼食費を含む)です。
- ・生涯教育点数：

学会参加のみ 専門20点、総会出席 基礎30点、筆頭発表者20点追加、共同発表者10点追加(自己申告による)、座長・司会10点追加

## 香川県立保健医療大学設立 History(その1)



十川 聖三 (元 香川県臨床検査技師会会長)

皆様お元気でしょうか。昨年暮れの叙勲授章祝賀会、誠にありがとうございました。

さて、臨床検査技師養成のための県立大学設立にあたりましては、知事を始め環境保健部の方々、県議会の皆様、医師会や医療関係の皆様、県民各位の検査業務への深いご理解と、何よりも会員の皆様の参画行動が全国初の検査技師による大学設立の起爆となりました。この動機は、古い話で恐縮ですが、私が県職員に入った昭和40年代、師と仰ぐ先生が退職される時に係長にもなれず、しかも県職員の若い男性検査技師が7人も続いて退職したのは、「指導されしかも監督をうける身」という技師法の冷遇さからであるということを経験したからです。

勉強で負けてもプライドで負けるのは何よりも悔しい小生は、検査という意義や価値はあっても「職責（身分）」の低さは耐え難く、社会に通用する職責（身分）と人材を作るために大学設立運動を行うようになりました。

そのため、何度も県庁に赴き改善を申し入れたり、「指導監督」という悪法の改正を日本臨床衛生検査技師会に申し入れたりしましたが、当初の反応は誠に冷ややかで見込みの薄いものでした。

昭和50年代、事務職は事務が管理するように、県庁内では検査技師が検査技師をマネジメントする体制作りの戦略に切り替えました。苦節して数年、県庁内の検査技師の主管課（医務課）の管理職として香川県技師会の副会長であった山根弘文先生を推薦いたしました。

平成2年、岡山大学医学部部長出身で香川県立中央病院院長および県の看護専門学校の校長でありました山本道夫先生（威風堂々として山本元帥とあだ名のつく実力者の先生）が「県立の看護短期大学設立」を県に具申しました。国は、迫り来る高齢化社会の対応として看護師養成を柱としたゴールドプランを策定しており、各県が看護大学を競い合っていた頃でもありましたが、あり得ないことにこの計画は頓挫してしまっただけです。

頓挫の情報は県幹部しか知らない県の機密でしたが、山根先生はその情報をキャッチし（これこそ県に検査技師を送り込んだ最大のメリット）、天佑と申しましょうか頓挫した機会を逃さず、それまで日臨技に向けていた大学設立要望を一転し、香川県に向けて設立運動を開始しました。

平成4年、技師会で12年勤めた事務局長から副会長となり、すぐに県立大学設立要望委員長に就任し、一挙に要望運動を繰り広げました。会員への趣旨説明や街頭でのビラ配り、国会、県議会、医師会、所属長などに陳情し、世論を盛り上げ、それを後ろ盾にして県行政に掛け合いましたが、なかなかよい返事はもらえませんでした。

行政の手ごたえのなさに落胆しながらも、県議会にアタックしたところ、当時の県議会議長が「要旨性は分かった、ところで幾らかかる？」と言われ赤面しました。それから、あちこちの県立大学の資料を調べ、建設会社に建設費用を聞き「110億円」と試算して基本設計の資料を作り再度提出しました。後年、落成時に知り得た情報では、それがほぼ同額であったらしく、安心しました。

本来、県職員がこのような活動を行うと大概は県行政という圧力で要望活動などは消滅するのですが、県議会の皆様が後ろ盾となっていただいたこともあり、何とかつづれずに前進することができました。

県の職員として進退の危険極まりない要望活動にのめり込んだのは、県に入職すると同時に野球部からの勧誘を受け、そのチームメイトの多くの行政マンと我が職種の職責（身分）を比較して遥かに劣る身分であることを目の当たりにしたときに、負けず嫌いのプライドがくすぐられたのは間違いのない所であったと思います。

## 屋島総合病院 新築移転



「受付機前に立つ柳井さんと細川さん」

柳井 由美、細川 美佐子（屋島総合病院）

こんにちは。屋島総合病院の柳井由美、細川美佐子です。

当院は、2016年11月7日に潟元駅から北西750メートルの場所に新築移転しました。新病院は4階建て鉄筋コンクリート造りの耐震構造で、延べ床面積は約2万1千平方メートル、病床数は279床です。外観の特徴は緑色の大きなパネルです。この緑色は「屋島」の緑を表していて、地域に密着した病院を目指しています。

近年の高齢化に伴って増加傾向にある脳血管疾患や関節疾患の患者への対応として、バイオクリーン手術室を2室設置するとともに回復リハビリテーション病棟が稼働しています。地域包括ケア病棟

は6月に稼働予定です。また、女性に優しい医療施設を目指し、LDR（陣痛分娩室）や婦人科外来隣接の女性専用病棟を導入し、女性目線に立った対応ができる体制を整えています。さらに、最新のマルチスライスCT、3Dマンモグラフィ撮影装置などを整備し、より安全で質の高い医療サービスが提供できるようになりました。

移転に伴い、地域医療連携室と入退院支援を統合し、新たに「総合支援センター」としてスタートしました。従来行っていた当院と地域の医療機関・施設を結ぶ地域医療連携業務と、入院・退院における調整・支援業務を統合させることでさらに発展した活動を目指しています。

地域医療連携の前方支援では、紹介患者さんが適切な診療科で安心して医療が受けられるよう紹介元医療機関と連携・調整を行います。後方支援では、患者さんの状態・ニーズに応じた生活環境が提供できるよう転院・退院相談を行い、関係機関との調整を行います。入院される患者さんが安心して入院加療が受けられるよう、入院前から退院後の生活を見据え、切れ目ない支援が提供できるよう、多職種が協働・連携し支援していきたいと考えています。

検査部は、生体検査7名、検体検査10名、助手1名の体制で病院の1階のど真ん中に位置する検査室にて日々の業務に励んでおります。

生体検査部門は心電図、肺機能、超音波室など個室化し、患者様のプライバシーに配慮しています。また心臓リハビリテーションが開始になったことに伴い、肺運動負荷モニタリングシステムが導入され心肺運動負荷試験（CPX）を行い、運動耐容能を評価し、検査技師の立場からチーム医療に参加しています。

検体検査部門は、今まであった自動採血管準備装置に加え採血採尿受付機が導入されました。開院当初は今までと違うシステムに戸惑っていた患者様も4ヶ月近くたった今ではずいぶん慣れてきています。採血室は中央処置室と併設になり朝一番は看護師を含め5台の採血台がフル活動しているため採血のための待ち時間は短縮されていると実感しています。

また、細菌検査室が陰圧室になり、病理部門では、クリオスタットと解剖台が新規導入され、感染対策への対応もされています。

新病院移設にあたり、生体検査部門では大きなトラブルはなく準備を進めることができました。しかし、検体検査部門は大変でした(^\_^;)。図面が書きかえられる度狭くなる検査室、そして実験台等がほとんど移設のため配置や搬入順番を考慮しなければなりません。また、排水管の位置が図面と少しずれがあったため予定していた実験台が入らなくなった事・・・あげればキリがありません。移設当日になっても全てが入りきるのか正直不安でいっぱいでした。が、なんとかなるものですね。実際稼働してみればコンパクトのまとまって動きやすい・・・って事にしておきます(笑)

毎日バタバタしておりますが、これからもチーム医療に貢献し、日々進化し続ける検査室を目指して頑張っていきます。



「採血室の様子」



## 香臨技定時総会(4/23) 出席票・委任状の提出について

平成29年度一般社団法人香川県臨床検査技師会定時総会の出席票・委任状については、必要事項を記入し、施設責任者を通じて、医療法人財団大樹会 総合病院回生病院 山本 直子（事務局）まで送付お願い致します。

**提出締切日：平成29年4月19日（水）**（期限厳守でお願いします）

連絡先：〒762-0007 香川県坂出市室町3丁目5番28号 医療法人財団大樹会 総合病院回生病院  
（一社）香川県臨床検査技師会 事務局 山本 直子  
TEL 0877-46-1011 FAX 0877-45-6838 E-mail：kensa@kaisei.or.jp

## 香臨技 求人情報について

香臨技では、ホームページにて求人情報の提供を行っています。  
現在、香川大学医学部附属病院、香川県済生会病院、高松市民病院、高松平和病院、JCHOりつりん病院など7件の求人が掲載されています。詳しくは、香川県臨床検査技師会のホームページをご覧ください。

### \*応募される方へ

- ・香臨技では就職の斡旋ではなく、情報提供のみを行っています。
- ・掲載されている求人への応募や問い合わせは、各施設の問い合わせ先まで各自でご連絡ください。
- ・求人期間中あるいは就職後に発生する如何なる問題に対しても、当技師会は一切の責任は負いません。

### \*求人情報の掲載を希望される方

- ・香臨技担当者が内容を確認の上、香臨技ホームページへ掲載いたします。
- ・申込みはメールにて提出して下さい。
- ・募集が終了したときは速やかにご連絡ください。採用が決定した場合には遅滞なく連絡をお願いいたします。

求人募集依頼の連絡先：唐木 孝雄（福祉部長） TEL 080-3923-0205 mail:karaka-t@ozzio.jp

### ・ 編集後記 ・



香川県立保健医療大学から、今年も20名の卒業生を送り出すことができました。彼らが社会人として活躍するようになるまでには、多くの困難や超えるべき壁があることでしょう。その一つ一つに立ち向かいながら、成長し続けてほしいと思います。そして、その傍らには常に良き家族、友、先輩の姿があるよう祈ってやみません。

小河 佳織（香川県立保健医療大学）



#### 臨検タイムス原稿送付先

〒761-0104 香川県高松市高松町2365  
医療法人社団 海部医院  
小林 万代まで  
TEL087-843-3666 FAX087-843-3667  
Eメール：kobaboobu0128@hotmail.co.jp  
香臨技ホームページ：  
ユーザー名 karingi2008 パスワード 0001

#### 臨検タイムス香川 通巻 260 号

【発行所】  
一般社団法人 香川県臨床検査技師会  
〒761-0704 香川県木田郡三木町下高岡2695-13  
事務局携帯電話 090-5913-1385  
【編集責任者】 小林 万代 山本 直子  
【編集委員】 藤重 和久 十川 直美 小河 佳織  
【印刷】 有限会社シーアンドシーイシハラ  
平成29年3月印刷・発行